



第6回

私とみんなてつ

小学生新聞コンクール表彰式を開催

全国 592 校、6555 点に上った応募作品。
最優秀作品賞 1 点は駅ポスターに。

第6回『私とみんなてつ』小学生新聞コンクール」表彰式が開催された。表彰式には全国 592 校 6555 点の応募作品から厳正な審査を経て選ばれた個人賞・学校賞の受賞者、受賞校が出席。栄えある受賞を祝った。



第6回「私とみんなてつ」小学生新聞コンクール 表彰式



1 受賞者の皆さんと主催者・後援者の役員 2 最優秀作品賞の表彰を受ける大久保流登さん 3 主催者挨拶をする石渡会長

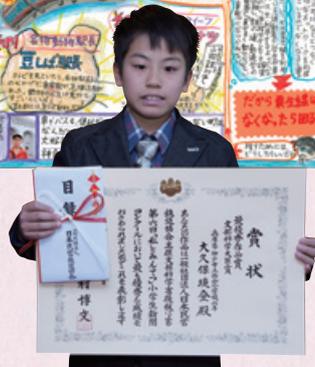
最優秀
学校賞

学校賞部門
国土交通大臣賞



愛知県／丹羽郡扶桑町立柏森小学校

総合学習の授業に、新聞づくりを活用しています。継続は力なりといいますが、新聞づくりを続けていると、子どもたちの書く力や考える力が伸びていくのがよく分かります。鉄道について調べること、視野も広がります。3年連続の最優秀学校賞受賞は、子どもたちにとって大きな励みになるでしょう。



文部科学大臣賞

最優秀
作品賞

「^{しんてつ}神鉄新聞 ^{あお}栗生線活性化特別号」

兵庫県／神戸市立西山小学校

大久保流登

神戸電鉄の栗生線は、利用者がピーク時の半分に減少しています。このままだと栗生線がなくなってしまうかもしれないので、乗客を増やす方法を考えてみました。名物動物駅長の「豆しば駅長」とご当地スイーツの「生みそドーナツ」です。テレビのCMで和歌山電鉄のタマ駅長を見て、詳しく調べてみると、タマ駅長が誕生してからお客さんがすごく増えて、鉄道も持ち直していることが分かりました。また、食べ物は最初、駅弁を考えてみたんですが、なかなかいい食材が見つからなくて、最近、「ナマ」がついたスイーツがはやっているから、それなら地元名産の生みその山田錦みそを使ってドーナツをつくればいいんじゃないかと考えました。

車やバスも便利だけど、僕はやっぱり町には電車が絶対必要だと思います。名物をつくってお客さんを増やしたり、学生だけではなく大人も電車を利用するにすれば、栗生線を残すことができます。僕が大人になったときにも、栗生線に元気に走っていてほしいと思っています。

授業や自由研究に活用

日本民営鉄道協会が主催する『私とみんなてつ』小学生新聞コンクール」は、新聞づくりを通じ、子どもたちに鉄道への関心と理解を深めてもらうことを目的に、2007年から毎年実施している。全国小学校社会科研究協議会の後援を得てスタートしており、12年開催の第6回からは、同協議会のほか文部科学省・国土交通省の後援を得ての開催となった。

新聞コンクールの募集対象は小学生全学年で、新聞づくりがまだ難しい1・2年生については「絵日記風の新聞」も受け付けている。回を重ねるごとに総合学習や国語などの授業、夏休みの自由研究や宿題に活用する学校が増えており、毎年参加する児童も少なくない。原則として学校を通じての応募となっているが、ポスターなどで新聞コンクールの開催を知り、自発的に参加する児童も増えている。

第6回『私とみんなてつ』小学生新聞コンクールには、全国592校から6555点(6610人の応募作品が寄せられた。第5回と比較すると、学校数で約100校、作品数で約1000点上回る応募数だ。地域的な広がりも顕著で、今回は38都府県からの参加となっている。

これら全応募作品の中から、日本民営鉄道協会では昨年11月下旬、審査委員による厳正な審査を経て、個人賞・学校賞の受賞作品を決定。1月11日(土)、受賞者14名、受賞校5校を招き、東京會館東商スカイルームにおいて表彰式を開催した。



日本民営鉄道協会 会長賞

優秀
作品賞



「坊ちゃん列車 今昔新聞」
愛媛県/松前町立岡田小学校 森 一駿

僕の家は、伊予鉄道の郊外電車の沿線にあります。だから路面電車に乗るのは街に行ったときです。小さい頃、おばあちゃんと一緒に街に買い物に行くと、特別に坊ちゃん列車に乗せてくれました。大好きな坊ちゃん列車の新聞をつくらうと決めて、車掌さんに取材しました。聞いたことは何でも、とても親切に教えてくださいました。初めての応募で、優秀作品賞をもらって、すごくうれしいです。



「みんなつ新聞 ローカル線はいいな 小湊鉄道」
千葉県/大網白里市立瑞穂小学校 小柴優輝

僕のひいおばあちゃんは、小湊鉄道の月崎駅の近くに住んでいます。小さい頃から見ている小湊鉄道の新聞づくりを始めてみると、書きたいことがたくさんあって、まとめるのが難しいと思いました。でも、僕は電車が大好きなので、小湊鉄道に取材して新しいことを学んだり、文章を考えたり、絵を描いたり、最後まで楽しく取り組むことができました。新聞が完成したときは、とても嬉しかったです。



「民鉄eco+ユニバーサルニュース ecoを考える特集号」
埼玉県/春日部市立上沖小学校 熊谷菜穂子

新聞コンクールに応募できる最後の学年なので、出品しようと思いました。ちょうど家に太陽光発電装置をつけたこともあり、「エコ」に興味があったので、エコとユニバーサルデザインをテーマに調べてまとめました。私が一番感心したのは、ブレーキをかけたときに発生する電気を他の電車の動力に使う回生ブレーキです。いろいろなことを知ってとても勉強になりました。参加してよかったです。



全国小学校社会科研究協議会 会長賞

優秀
作品賞



「広電でGo Go!!」
広島県/広島市立広瀬小学校 佐藤 茜

お姉ちゃんが第3回の新聞コンクールで審査員特別賞を受賞して、お兄ちゃんが第5回で奨励賞をもらいました。前回は私も一緒に応募したけど全然だめだったから、優秀作品賞に選ばれて、すごくうれしい。今回は、私が10歳で広電がちょうど私の10倍の100周年だったので、テーマはすぐに決まりました。構成が難しかったけど、頑張ってまとめました。次回も広電の新聞をつくって参加したいと思います。



「長鉄新聞」
岐阜県/郡上市立三城小学校 志津野敦弥

長良川鉄道は、美濃太田駅から北濃駅までの第3セクターの鉄道です。高校生が通学に使っていますが、お客さんが減って赤字が続いています。新聞づくりのために取材して、長鉄が赤字を減らすためにいろいろな努力を続けていることを、初めて知りました。僕も「ゆるキャラ列車」や「長鉄結婚式」など、集客のアイデアを考えてみました。頑張っている長鉄をこれからも応援しつづけたいと思います。



「まちの顔 京急新聞③」
神奈川県/清原小学校 平田陽暉

小さい時から鉄道が大好きです。特に京急が大好きで、4年生から「京急新聞」をつくって応募してきました。今回が第3号で、上大岡駅の1日を調べるために、駅員さんに話を聞いたり、夜遅くに駅に行って写真を撮ったりしました。お客さんにはいろいろな人がいます。取材したり観察したりして、駅員さんの仕事は本当に大変だなと思いました。僕も電車に乗るときはマナーに気をつけようと思いました。



全国約3000の駅に3月末まで掲出する最優秀作品賞の駅ポスター

表彰式では、日本民営鉄道協会の石渡恒夫会長（京浜急行電鉄株式会社代表取締役社長）が主催者挨拶に立ち、「鉄道を応援してくれる皆さんからたくさんのご応募をいただき、たいへんうれしく思っています」と、感謝の言葉を述べた。また、国土交通省鉄道局都市鉄道政策課の堀内丈太郎課長、全国小学校社会科研究協議会の石橋昌雄会長は、栄えある賞に輝いた子どもたちに、祝福の言葉を贈った。

新聞づくりは、単なる調べものの学習ではなく、自分が興味を持ったことや疑問に思ったことを調べて考える力、分かりやすくまとめる力が必要だ。個人賞の受賞作品は、表彰式に続いて開催された懇親会で披露され、ずらり並んだ力作の数々に、出席者からは口々に称賛の声が挙がった。

最優秀作品賞はポスター化し、3月末日まで、日本民営鉄道協会加盟71社の駅に掲出している。また、日本民営鉄道協会では、鉄道イベントなどを利用して、新聞コンクールのPRや受賞作品の展示会を積極的に展開していく方針だ。第7回目を迎える『私とみんなつ』小学生新聞コンクールは、今年も7月1日から作品募集を開始する。

- 個人賞部門 最優秀作品賞1名、優秀作品賞6名、奨励賞8名、佳作19名
- 学校賞 最優秀学校賞1校、優秀学校賞4校、奨励賞8校、若草奨励賞5校

最優秀作品賞・優秀作品賞・奨励賞を受賞した15作品は、日本民営鉄道協会ホームページ内サイト『みんなつキッズ』で紹介しています。
<http://kids.mintetsu.or.jp/>